

道徳教育研究についての動向分析（1）

——2000年～2021年までのCiNiiの検索結果をもとに——

Trend analysis on moral education research (1)
: Based on CiNii search results from 2000 to 2021

児童教育学科／教職センター 走井 洋一

1. 問題の所在と課題の設定

（1）問題の所在と課題の設定

貝塚 [2021: 6f.] は「戦後の道徳教育には、「道徳教育論」はあったが、学問研究の自由と学問の体系を備えた「道徳教育学」は構築されていない」と指摘している。貝塚のこの指摘に著者もまた、感覚的には同意できる場所であるが、現実はどうであったのかについての実証的な研究を管見ながら確認できないことから、これを事実として受け取ってよいかは留保せざるをえない。それゆえ、本稿は、貝塚が指摘する「道徳教育学」樹立に向けた基礎的研究として、これまでの道徳教育研究がどのように行われてきたのかについて、2000年以降の状況を実証的に明らかにするものである。

2000年以降に限定したのは以下の理由による。2000年12月に教育改革国民会議は報告をまとめるが、そこで「道徳を教えることをためらわない」と提案されたことから、教科化への動きが明確に生じた¹⁾。ただ、実際に教科化に向けた議論が本格化するのは、2013年1月の教育再生実行会議第1次提言を待たなければならず、特別の教科としての道徳科が施行されるのは、2017年度以降ということになる。すなわち、2000年から2021年（調査日）までの期間は教科化以前から教科化という画期を経てその実施後に至る変革期と位置づけることができ、道徳教育をめぐる大きな状況の変化のなかで年代による研究動向の差異を見出しうる可能性があることが最大の理由である。

ただ、どのように研究が行われてきたのかについての実証的な研究を行うといっても、物理的な限界から、「2. 研究の方法」で述べるように、本論文においてはCiNii Articles / Books（以下、両者をあわせて表記するときにはCiNiiとする）の検索結果をもとに文献のタイトルを対象としたテキストマイニングを実施することでその傾向を見出すことを試みるにとどまらざるをえない²⁾。この場合、以下の制約が生じる。第1にCiNiiに登録されている文献に限定されるという点である。例えば、CiNii Articlesには道徳教育に関連する商業誌は掲載されていない。そのため、それらの動向を欠落させてしまうという問題が生じる³⁾。また、検索キーワードにヒットした文献のみを対象とすることになるため、道徳教育に関連しているものの、道徳教育をキーワードとしていない文献を排除している可能性がある。第2に、CiNii Booksは大学図書館に所蔵されている書籍を対象としているという限定がある。第3に、文献のタイトルのみに限定することから、必ずしもそれぞれの文献の内実を適切に反映しているとはいえない可能性がある。

こうした制約があるとはいえ、研究動向を量的に把握する試みは、今後の道徳教育研究の展開を見通す基礎的な研究としての意義があると考えられる。

（2）2000年～2021年の道徳教育をめぐる政策動向

先に指摘したことを含めて、2000年12月の教育改革国民会議最終報告以降の道徳教育に関わる政策動向を示すと以下のとおりとなる。

2000年 12月 教育改革国民会議最終報告

「小学校に「道徳」、中学校に「人間科」、高校に「人生科」などの教科を設け、専門の

教師や人生経験豊かな社会人が教えられるようにする。そこでは、死とは何か、生とは何かを含め、人間として生きていく上での基本の型を教え、自らの人生を切り拓く高い精神と志を持たせる。」

- 2002年 4月 1998年告示小学校・中学校学習指導要領施行
「心のノート」配布開始
- 2007年 1月 教育再生会議第1次提言「社会総がかりで教育再生を～公教育再生への第一歩～」
「学校は、「道徳の時間」について十分な授業時間を確保し、体験的活動や心に響く教材を取り入れる。また、地域や企業の有識者を招いた授業を実施するなど、道徳教育を形骸化させない。」
- 2007年 6月 教育再生会議第2次提言「社会総がかりで教育再生を～公教育再生に向けた更なる一歩と「教育新時代」のための基盤の再構築～」
「徳育を教科化し、現在の「道徳の時間」よりも指導内容、教材を充実させる」
- 2007年 12月 教育再生会議第3次提言「社会総がかりで教育再生を～学校、家庭、地域、企業、団体、メディア、行政が一体となって、全ての子供のために公教育を再生する～」
「徳育を「教科」（徳育を教科化するが、点数での評価はせず、専門の免許も設けない。小学校、中学校とも学級担任が担当する。）とし、感動を与える教科書を作る」
- 2010年 4月 2008年告示小学校・中学校学習指導要領施行
- 2013年 2月 教育再生実行会議第1次提言「いじめの問題等への対応について」
「子どもが命の尊さを知り、自己肯定感を高め、他者への理解や思いやり、規範意識、自主性や責任感などの人間性・社会性を育むよう、国は、道徳教育を充実する。そのため、道徳の教材を抜本的に充実するとともに、道徳の特性を踏まえた新たな枠組みにより教科化し、指導内容を充実し、効果的な指導方法を明確化する。」
- 2013年 6月 いじめ防止対策推進法成立
- 2013年 12月 道徳教育の充実に関する懇談会報告「今後の道徳教育の改善・充実方策について～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～」
- 2014年 10月 中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」
- 2015年 3月 学校教育法施行規則及び学習指導要領一部改正、「特別の教科 道徳」設置
- 2017年 3月 小学校・中学校学習指導要領改正
- 2018年 4月 2015年一部改正小学校学習指導要領施行
- 2019年 4月 2015年一部改正中学校学習指導要領施行
- 2020年 4月 2017年告示小学校学習指導要領施行
- 2021年 4月 2017年告示中学校学習指導要領施行

2. 研究の方法

(1) 研究の対象

本論文は、CiNii (<https://ci.nii.ac.jp/>) で以下の条件で検索した結果合致したものをTSVファイルとして保存し、それをxlsxファイルに変換したものを元データとした。

CiNii Articles フリーワード：道徳教育／出版年：2000年から
検索日：2021年7月8日／4616件が合致

CiNii Books フリーワード：道徳教育／出版年：2000年から
検索日：2021年7月8日／1751件が合致

元データのタイトルと出版年を調査対象としたが、論文タイトルには学会名、特集名、懸賞論文名・区

分名が含まれているものもあるため、それらを削除したもの⁴⁾を調査対象データとした(以下「対象データ」とする)。なお、CiNii Articlesを論文(数)、CiNii Booksを著作(数)とし、両者を合わせて用いる場合は、文献(数)とする。

(2) 研究の方法

本稿ではKH Coder 3.Beta03を用い、調査対象データの論文・著作タイトルを対象にmecabで形態素分析を実施した。なお、形態素分析の際、道徳教育に関連する術語⁵⁾を登録したうえ実施した。

3. 分析結果

(1) 文献数の推移

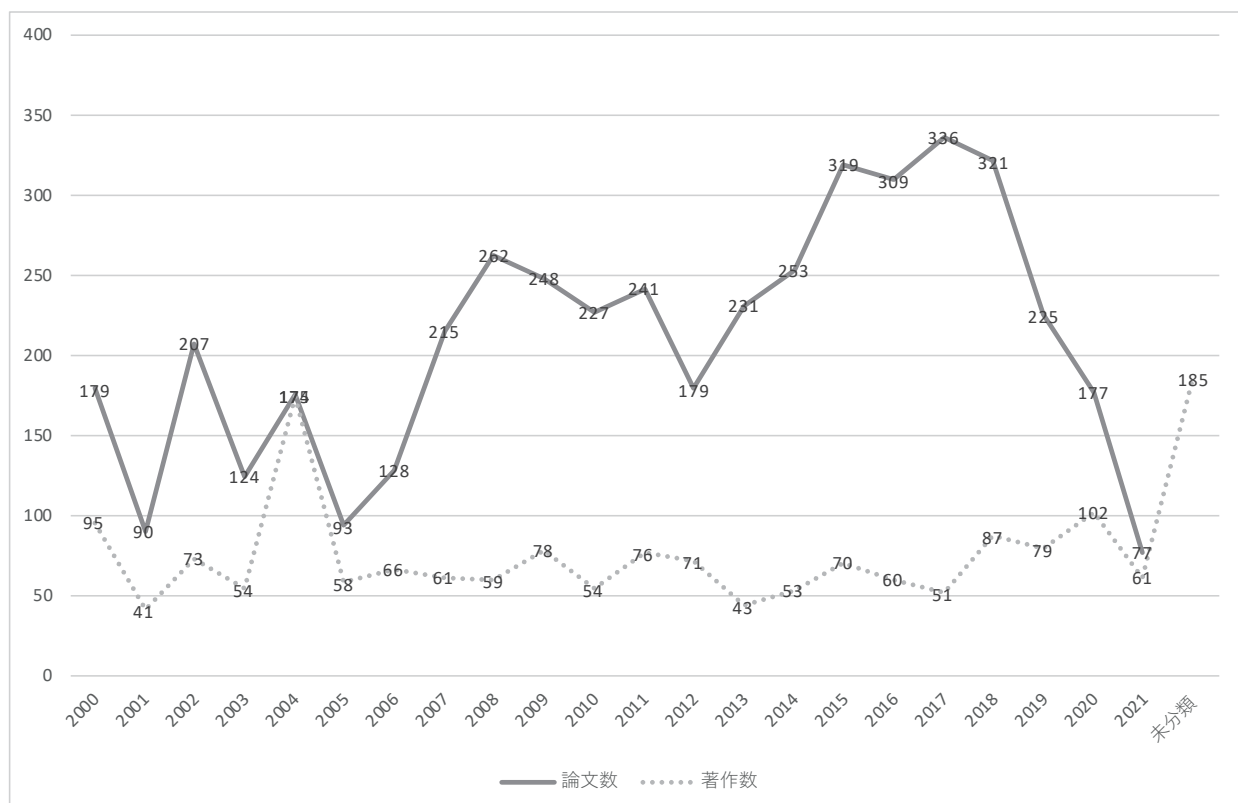


図 1 文献数の推移

まず、著作数には未分類が含まれるが、これは教科書が該当している。

論文数から見ていくと、2002年にいったん増加するが、これは1998年告示小学校・中学校学習指導要領の施行時期と一致している。また、2007年～2011年にかけて増加するが、教育再生会議提言及び2008年告示学習指導要領の改訂・施行の時期に合致する。そして、2012年に減少するものの、教科化への直接的な端緒をなす教育再生実行会議第1次提言が出された2013年から「特別の教科 道徳」が施行された2017、2018年をピークに増加し、その後減少傾向に入っている。

一方の著作数は、2004年が特異な動きをしていることと、2017年以降微増傾向がみられるものの、おおよそ横ばいで推移している。2004年の内実を探ると、徳島県、愛知県、香川県、静岡県教育委員会・校長会・研究会による教材、指導書、あるいは、出版社による東京都版、福井県版の副教材が相次いで刊行されていた。これらは1998年告示学習指導要領〔国立教育政策研究所 2021最終確認〕において従来「魅力的な教材の開発や活用」を求めることのみにとどまっていた記述が「先人の伝記、自然、伝統と文化、

スポーツなどを題材とし、児童（生徒）が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用」と変更されたことに起因していると考えられる。

(2) 文献タイトルの傾向性

①出現頻度上位50語

| CiNii Articles (論文) | | | | CiNii Books (著作) | | | |
|---------------------|------|--------|------|------------------|------|-------|------|
| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
| 道徳教育 | 3258 | 可能 | 158 | 道徳 | 819 | 資料 | 43 |
| 教育 | 1450 | 中学校 | 158 | 道徳教育 | 369 | あす | 41 |
| 道徳 | 1242 | 充実 | 156 | 授業 | 330 | 学ぶ | 41 |
| 授業 | 553 | 人間 | 156 | 指導 | 307 | 理論 | 41 |
| 実践 | 489 | 教材 | 154 | 教師 | 214 | 特別の教科 | 38 |
| 指導 | 455 | 教師 | 148 | 教育 | 211 | 明るい | 37 |
| 研究 | 453 | 地域 | 145 | どうとく | 190 | 学校 | 36 |
| 学校 | 370 | 育てる | 141 | 小学校 | 153 | 力 | 36 |
| 考察 | 348 | 検討 | 141 | 心 | 143 | 教材 | 35 |
| 課題 | 326 | 開発 | 136 | 中学校 | 107 | 社会 | 34 |
| 心 | 254 | 評価 | 136 | 研究 | 93 | 修身 | 34 |
| 社会 | 253 | 生徒 | 134 | 実践 | 90 | 日本 | 32 |
| 小学校 | 233 | 生きる | 133 | 生きる | 84 | 教科 | 29 |
| 活動 | 214 | 倫理 | 132 | 中学 | 78 | 評価 | 29 |
| 考える | 212 | 特別の教科 | 130 | 考える | 77 | 人間 | 26 |
| 道徳の時間 | 212 | 豊か | 130 | 子ども | 68 | 価値 | 25 |
| 育成 | 206 | 自己 | 129 | 中学生 | 66 | 創る | 25 |
| 中心 | 206 | 視点 | 127 | 学習 | 62 | 展開 | 25 |
| 問題 | 206 | 宗教 | 127 | 自分 | 62 | 資料集 | 24 |
| 教科 | 195 | 学習指導要領 | 126 | ゆたか | 56 | 問題 | 24 |
| 子ども | 193 | 方法 | 122 | 生き方 | 56 | プログラム | 23 |
| 学習 | 191 | 在り方 | 121 | 新しい | 53 | 愛国心 | 23 |
| 価値 | 187 | 内容 | 119 | 道徳科 | 46 | プラン | 22 |
| 推進 | 179 | 活用 | 118 | 育てる | 44 | 開発 | 22 |
| 道徳科 | 162 | 日本 | 117 | 明日 | 44 | 教科書 | 22 |

表1 出現頻度上位50語（論文・著作）

論文、著作のいずれにおいても、「授業」、「実践」「指導」といった言葉が比較的多く出現していることから、道徳の授業における指導実践についての研究が多かったことがうかがえる。一方で、それらのなかでも検討されていると考えられるが、道徳性、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度などの諸概念を正面に据えた研究がそれほど行われていないこともうかがえる。学習指導要領及び解説において一定の定義づけがなされていると、それらをさしあたっての前提として研究が進められていることが予想される。

著作については、副教材、教科書、指導書が割合として大きく占めているため、それらのタイトルとなっている文言（「どうとく」、「生きる」、「ゆたか」等）が現れていることを指摘できる。

④との関係が見出されているが、別のものととらえた)、⑥地域、社会連携、⑦道徳科(グループとしては①との関係が見出されているが、「指導」を媒介としていることから、ここで分けられると判断した、また評価はここに含まれるものとして扱っている)、⑧自己の生き方、⑨道徳教育推進教師、⑩改善・充実、⑪戦後日本、⑫人間形成、⑬意識調査、⑭主体的・対話的で深い学び、⑮愛国心、の15グループを見出すことができた。

著作では、副読本、教科書、指導書に関わるグループが大半を占め、それ以外のグループとしては、①「心」の育成、②実践理論、③人間としての生き方、④道徳科(評価を含む)、⑤教材開発、⑥愛国心、⑦終身教科書、⑧考え、議論する、の8グループを見出すことができた。また、「北海道」、「静岡」、「福井」という地名からわかるように、地域教材も一定割合含まれることがわかる。

(3) コーディング分析

①カテゴリーの設定

上記の検討から、文献タイトルからいくつかのグループを見出すことができた。これらのグループをもとに仮説的にカテゴリーを設定し、それらと発行年、及び相互の関係を見出していくこととする。なお、著作は副読本、教科書、指導書の割合が多いことから、ここからは論文のみを対象として検討していく。

論文タイトルにおいて探索的に明らかになった15のグループをもとにカテゴリーを仮説的に設定し、コード化した(表2)。

表2 カテゴリーと抽出語の対応表

| カテゴリー | 抽出語 | カテゴリー | 抽出語 |
|---------|------------------|----------------|-------------------------------|
| 授業実践 | 授業/実践/改善/工夫/指導 | 道徳科の目標(自己の生き方) | 自己/人間/生き方/在り方/見つめる/みつめる/多面/多角 |
| 「心」の育成 | 心/豊か/ゆたか | 価値・内容項目 | 価値/内容/項目/規範 |
| 教材開発 | 活用/開発/教材/感動/響く | 思想研究 | 哲学/倫理/思想/カント/理論 |
| 体験活動 | 体験 | 歴史研究 | 歴史/史的/修身/近代/戦後 |
| 道徳の時間 | 道徳の時間 | 外国研究 | 外国/フランス/アメリカ/中国/韓国 |
| 地域、社会連携 | 家庭/地域/連携/社会 | 宗教研究 | 宗教/仏教/キリスト教 |
| 道徳科 | 道徳科/教科/教科化/特別の教科 | 心理学研究 | 心理/心理学/コールバーグ/ジレンマ/ピアジェ/発達 |
| 評価 | 評価 | | |

探索的に見出したグループから以下の点を変更してカテゴリーを設定した。

- ・「心」の育成については「育成」「育てる」など一般的にも用いる語を省いた。
- ・「評価」は道徳科のグループとして扱われていたが、道徳科以前も評価を行うことは学習指導要領に明記されていたことから、別カテゴリーとした。
- ・「自己の生き方」は道徳科の目標として組み直した。
- ・探索的には見出されていない「価値・内容項目」は授業で扱うべきものであるため、目標、方法、評価とともに検討されるべきカテゴリーであると考え、新たに設けた。
- ・「思想研究」、「歴史研究」、「外国研究」、「宗教研究」、「心理学研究」のカテゴリーは、本論文の問題意識となっている理論的研究の不在を実証的に検証するために設定した(以下、これらのカテゴリーを総称するときには理論的研究とする)。なお、それぞれの抽出語については頻出語150位までに出現するものを中心に設定した。

②カテゴリーと発行年との関係

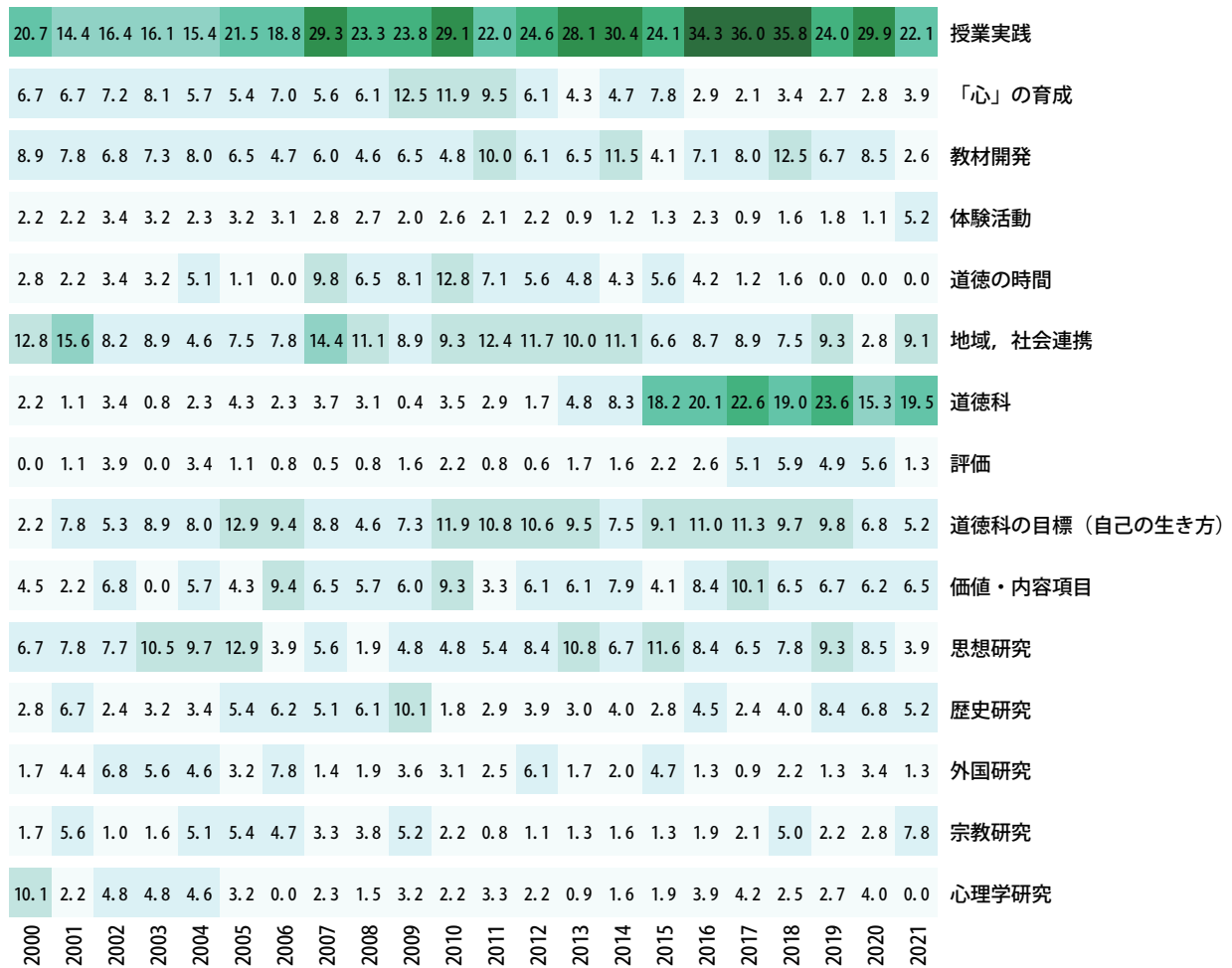


図4 カテゴリーと発行年のクロス集計にもとづくヒートマップ

カテゴリーと発行年のクロス集計を行い、各カテゴリーの出現割合にもとづいてヒートマップで表した。「授業実践」に関して、論文数そのものが多くなっていた2016～2018年に出現割合も増加しているが、一貫して出現しているので、継続的に研究が行われていることがわかる。また、「道徳の時間」は2010年をピークとして減少していき、それに入れ替わり「道徳科」が2015年学習指導要領一部改正の後から増えているが、当然の結果だろう。また、「評価」についても「道徳科」と同様の傾向にある。道徳科以前も評価することは学習指導要領上求められていたわけであるから、評価に関する研究が継続的に行われていてもいいはずだが、教科化に伴って指導要録に記載する必要が生じたというニーズに応じて取り組まれたことがうかがえる。その他は発行年ごとの違いを出せるものの、大きな特徴を指摘できるほどのものはないといってよい。

③カテゴリー間の関係

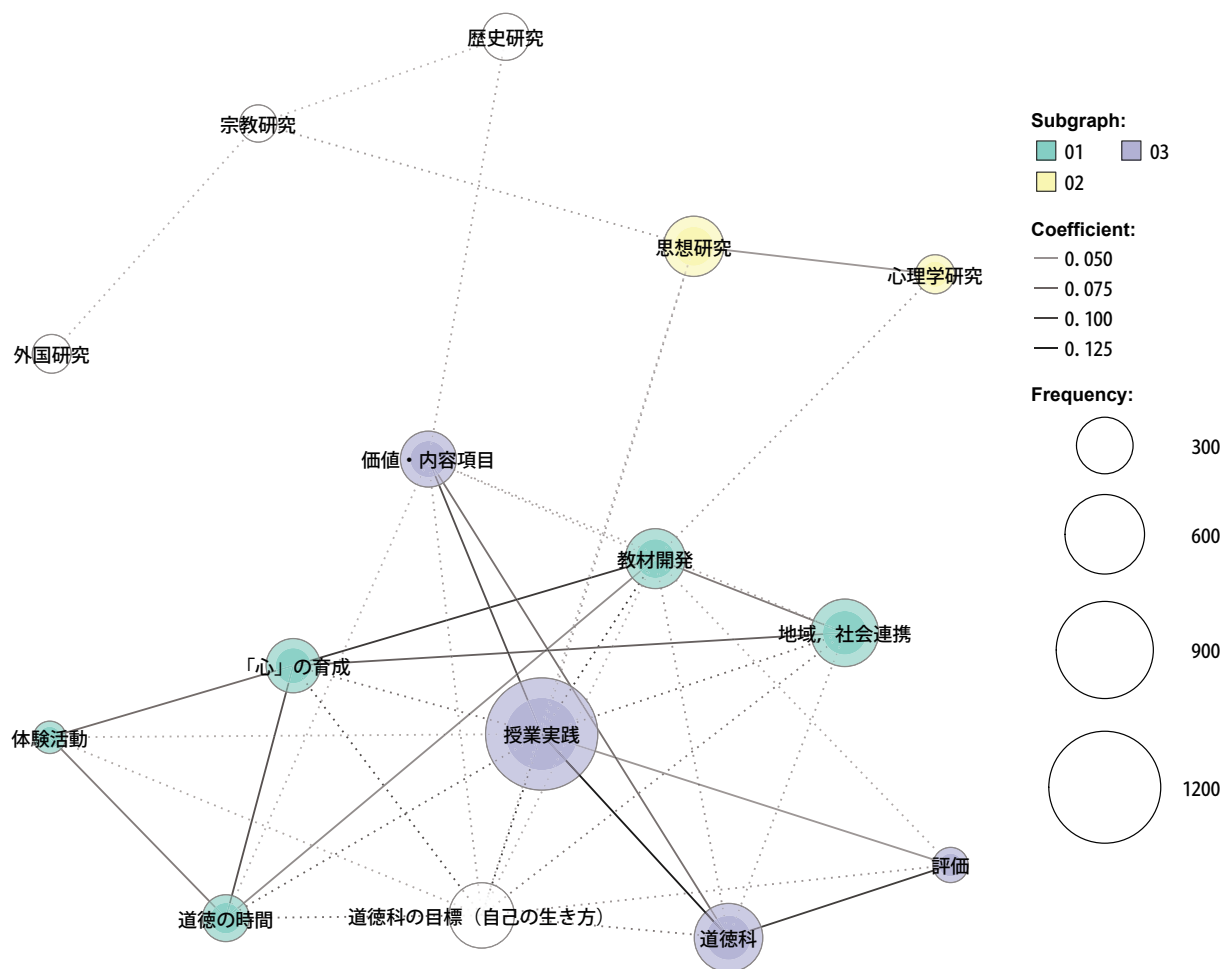


図5 共起ネットワーク (カテゴリー間)

カテゴリー (の抽出語) を対象として、カテゴリー間の共起関係をJacard係数で算出し、上位40位までを共起ネットワーク図で示した。ここからうかがえるのは、「授業実践」を中核として、「道徳科」, 「価値・内容項目」, 「評価」とが関係していること、また、「教材開発」, 「地域, 社会連携」などは、相対的に「道徳の時間」との関係が強いこと、「思想研究」と「心理学研究」には一定の関係を見出すことができるが、それらと「授業実践」等との関係は弱いこと、同じ理論的研究のなかでも、「思想研究」, 「心理学研究」が「歴史研究」, 「外国研究」との関係を見出せないこと、などが明らかになった。

4. まとめ

文献タイトルのみを対象とした研究動向分析であるという制限があることを留保したうえで、ここまでの検討を踏まえていくつかの点を指摘しておきたい。

第1に、授業実践研究が道徳教育研究の中核を占めつつ持続的に行われてきていることを指摘できる。教科化前も後も研究の中心を占めることはごく当然であるといっていよう。

しかし、第2に、本論文の問題意識は、「道徳教育論」はあるが、「道徳教育学」は確立されていないことを実証することにあつたのだが、授業実践研究が「道徳教育論」であると断定することはできないものの、少なくとも、道徳教育に関する様々な理論的研究と関連させつつ、授業実践研究が行われているとはいいがたい状況、すなわち、理論的研究を授業実践へと展開したり、授業実践を理論的に検証したりすることが少ない状況にあることがうかがえる。授業実践と道徳教育に関する理論的研究が必ずしも関連する

ことがないまま実施されている可能性は否定できない。

ただ、第3に、それは授業実践研究が理論的研究を参照していないということだけではなく、理論的研究そのものがそれほど行われていないことにも起因すると考えられる。確かに理論的研究が継続的に行われていることはコーディング分析によって明らかになったものの、散発的で絶対数が少ないために今回用いた指標での探索的な分析ではグループを見出すに至らなかった。何をもち「道徳教育学」というのか自体が検討の課題となりうるが、少なくともそうした独立した学が構成され、地道に研究が行われてきたとは言いがたい現状があることを指摘できるだろう。

そして、最後に、道徳教育に関する研究そのものが減少傾向にあるということが指摘できる。2020年はコロナ禍という特殊な状況下にあったこと、2021年もまたそれが継続するとともに本稿では途中までを対象としていることといった制約があるが、それでも2019年から道徳教育に関する論文が減少傾向にあると指摘しても当は失してまい。「道徳教育学」の構築に至る前に、「教科化バブル」がはじけたというのが正直なところではないだろうか。

5. 今後の課題

以下では今後の課題をいくつか指摘しておく。

道徳教育に関する量的な研究についての先行研究がなく、例えば、日本道徳教育学会等の特定の学会における文献サーベイを丁寧に行い分類するなどの試みも考えられる。ただ、本稿は「道徳教育学」の構築に向けた予備的研究であることと物理的限界からこのような手法で取り組んだ。今回の調査手法そのものの妥当性の検討を含め、より広範な実証的な研究は必要であろう。

また「道徳教育学」の構築に向けての検討は別稿に譲りたいと思うが、それでも、それを基礎支えする研究の広がり十分とはいえない現状では、そうした検討そのものが画餅に帰するという懸念を禁じえない。どのように研究の裾野を広げることができるのかについても別途検討を要する課題であろう。

注

- 1) 調査始期をいつにするのかもまた、こうした調査研究においては重要な論点となる。例えば、1989年告示学習指導要領は「生命に対する畏敬の念」の導入、内容項目の重点化等、道徳の時間の在り方を大きく変更したものであったとあってよいがその前後にどのような変化があったのか、また、「新しい時代を拓く心を育てるために」一次世代を育てる心を失う危機―(1998年6月30日)がいわゆる「心の教育」というタームを文教政策の用語として明示し、「道徳教育を見直し、よりよいものにしていこう―道徳の時間を有効に生かそう」と道徳教育と道徳の時間の見直しを提案したことが研究動向にどのような影響を与えたのか、等も考えられる。ただ、本稿においては道徳の教科化という政策動向と研究動向の関係を探ることに焦点化することから2000年以降とした。
- 2) CiNiiではなく国立国会図書館の検索結果を対象とすることも考えられるが、第1にCiNiiでは論文と書籍を別に検索することが可能であること、第2にデータの入手性がCiNiiの方が簡便であること(検索結果のテキスト保存についてCiNiiが200件単位であるのに対して、国立国会図書館は50件単位)から、本論文ではCiNiiを利用することとした。
- 3) 道徳教育に関する商業誌が除外されると、商業的ニーズからなされている数多くの授業実践開発・提案を欠落する可能性がある。本稿においてみられたように、それらが理論研究との関係が希薄であるのか否かについては改めて検討することとしたい。
- 4) sedを用いて正規表現で以下に合致するものを削除した(／は区切り)。

((^(*特集[^])) / ((^(*シンポジウム[^])) / ((^)*年度.季*) / ((^(*学会[^])) / ((^(*大会[^])) / .+部
[佳作最優秀賞・]+

5) 道徳教育に関する術語としては以下のものを用いた（／は区切り）。

心のノート／教育再生実行会議／教育再生会議／教育改革国民会議／考え議論する／道徳の時間／考え、議論する／道徳教育／道徳科／特別の教科／特別活動／道徳教育推進教師／学習指導要領／総合単元／総合的な学習／道徳性／道徳的実践力／道徳的心情／道徳的判断力／道徳的実践意欲／実践力／判断力／情報モラル／高等学校／しょうがく／どうとく／指導書

参考文献

- 中央教育審議会 [2014] 「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/10/21/1352890_1.pdf, 最終確認日：2021年7月29日
- 道徳教育の充実に関する懇談会 [2013] 「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～」, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/_icsFiles/afieldfile/2013/12/27/1343013_01.pdf, 最終確認日：2021年7月29日
- 樋口耕一 [2020] 『社会調査のための計量テキスト分析 [第2版] —内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- 貝塚茂樹 [2021] 「道徳教育「論」から道徳教育「学」へ」道徳教育学フロンティア研究会編『道徳教育はいかにあるべきか—歴史・理論・実践』ミネルヴァ書房, pp. 1 - 8
- 教育改革国民会議 [2000] 「教育改革国民会議報告—教育を変える17の提案—」, <https://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/houkoku/1222report.html>, 最終確認日：2021年7月29日
- 教育再生会議 [2007] 「教育再生会議第1次報告 社会総がかりで教育再生を～公教育再生への第一歩～」, <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouiku/houkoku/honbun0124.pdf>, 最終確認日：2021年7月29日
- 教育再生会議 [2007] 「教育再生会議第2次報告 社会総がかりで教育再生を～公教育再生に向けた更なる一歩と「教育新時代」のための基盤の再構築～」, <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouiku/houkoku/honbun0601.pdf>, 最終確認日：2021年7月29日
- 教育再生会議 [2007] 「教育再生会議第3次報告 社会総がかりで教育再生を～学校、家庭、地域、企業、団体、メディア、行政が一体となって、全ての子供のために公教育を再生する～」, <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouiku/houkoku/honbun1225.pdf>, 最終確認日：2021年7月29日
- 教育再生実行会議 [2013] 「いじめの問題等への対応について」, https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/pdf/dai1_1.pdf, 最終確認日：2021年7月29日
- 国立教育政策研究所 [2021 最終確認] 「教育研究情報データベース 学習指導要領の一覧」, <https://erid.nier.go.jp/guideline.html>, 最終確認日：2021年8月3日
- 末吉美喜 [2019] 『テキストマイニング入門—ExcelとKH Coderでわかるデータ分析』オーム社
- 牛澤賢二 [2021] 『やってみようテキストマイニング [増補版] —自由回答アンケートの分析に挑戦！』朝倉書店

謝辞

これまでmecabをR上で動かすRmecabでテキストマイニングを試行していたものの、十分に成果を見出すことができずにいたところ、本学児童学科の平山祐一郎先生から末吉 [2019] をお薦めいただき、KH Coderについて紹介いただいた。この紹介がなければ本論文を執筆することはなかった。ここにお礼を申し上げたい。ただ、本稿において手法上の瑕疵があるとすれば、それはすべて著者に帰することを付記しておく。